

## 今週のグラフ: 頼みの綱は女性 — 銀行幹部層に女性登用を

[IMFBlog](#)

2017年9月19日



世界的に見て、銀行と銀行監督当局の幹部に占める女性の割合は20%に満たない。女性の銀行役員が増えることで、銀行の安定性にプラスの効果をもたらす可能性がある (写真: istockdaily/iStock by Getty Images)

金融業界の「ガラスの天井」には、ヒビがまだほとんど入っていない。世界的に見て、人材プールの男女比と、銀行役員・銀行監督当局幹部の男女比とを比較すると、両者の間には大きなギャップがまだ存在する。

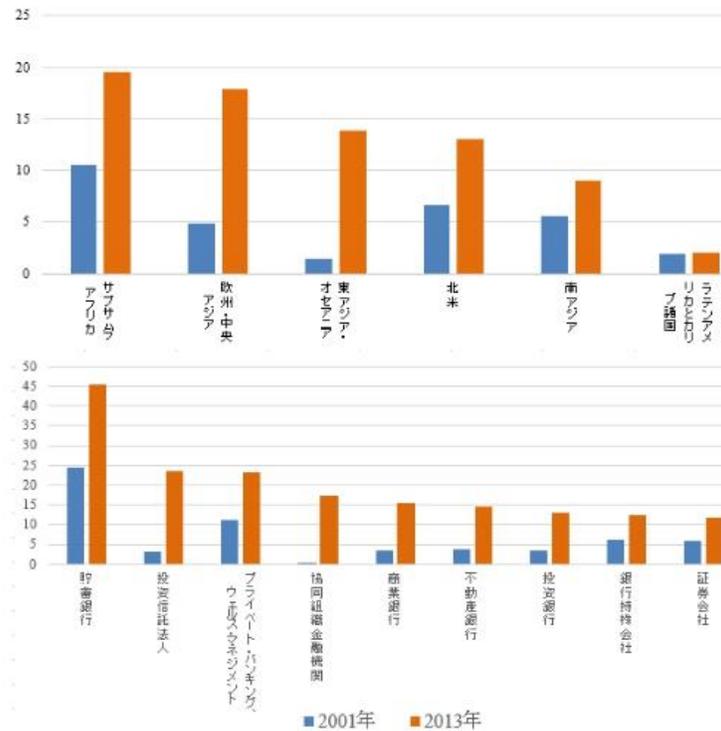
直近の IMF [スタッフ報告書](#)では、銀行セクターの特徴や業績に関して、また、銀行役員や銀行監督当局幹部に占める女性の割合について、72 か国を対象に 13 年間にわたり集計された包括的なデータセットを見て取ることができる。

下のグラフを用いて、主な分析結果を紹介する。

## 銀行業界により多くの女性が必要

銀行役員の女性率は、多くの地域で銀行の形態を問わず向上してきたが、まだ低水準である。

(役員全体に占める比率%)



出典: IMFワーキングペーパー「頼みの綱は女性リーダー - 銀行幹部に女性登用を (Banking on Women Leaders: A Case for More)」(17/199)



### データが指し示すこと

- 女性が銀行役員に占める割合は **20%に満たず**、銀行の最高経営責任者 (CEO) に占める女性の割合は **2%に満たない**。2013 年には、調査対象となった 72 か国の銀行 800 行中、15 行の CEO のみが女性だった。
- 地域の地理的位置や国の所得水準、銀行の形態を問わず、銀行・銀行監督当局幹部に占める女性の割合は世界中で低かった。例外は貯蓄銀行。
- 一般的な認識とは反対に、先進国・地域よりも低所得国や中所得国において、銀行・銀行監督当局幹部に占める女性の割合が高かった。

朗報は、多くの地域や様々な形態の銀行で役員の女性率が高まっていることだ。東アジアでは、女性比率の平均が2001年の2%から2013年の14%まで高まった。欧州と中央アジアでは、同時期に比率が4%から18%まで上昇した。銀行の形態で見ると、貯蓄銀行は2001年時点で他の形態の銀行よりも女性比率が高かったが、その女性比率は2倍に伸びた。

また、本報告書では、他の因子を制御したところ、女性役員比率増は資本バッファーの水準向上によって銀行の安定性とプラスの関係性にあると示す新たな結果が発見されている。銀行監督当局幹部の女性比率も銀行の安定性と関係しているようだ。

\*\*\*\*\*

**IMFBlog** は、国際通貨基金 (IMF) 職員や幹部が、その時々の際際の経済問題や政策問題について意見を述べ、広く討論する場である。

IMF は、ワシントン DC に本部を置く、189 か国の加盟国からなる組織で、国際金融協力と世界の金融安定性強化に取り組んでいる。

掲載されている見解は著者のもので、必ずしも IMF および IMF 理事会の見解を必ずしも示しているわけではない。